

東京 TS ネット主催セミナーVol.17 開催レポート (2025年6月7日開催)

6/7(土)「はじめての刑事司法手続き」というテーマでセミナーを開催いたしました。本テーマでのセミナーは今回が初めてではなく、これまで刑事司法に接したことがない人にもわかりやすい内容として、毎回ご好評をいただいております。

本稿では、セミナーの概要や当日の会場の雰囲気をお伝えいたします。

セミナー当日は、主に①「刑事司法の全体像」と②「医療観察・少年審判手続き」の2パートに分けて、基礎的な知識から最新の法改正内容まで幅広く説明がなされました。講師は、当事務局メンバーの山本弁護士・長谷川弁護士です(それぞれ①、②を担当)。

セミナー前半は、後半パートの前提となる法律知識や捜査・公判段階の流れなどをメインとして、「障害のある人と刑事司法」の関係・問題点など、中々耳にすることのないポイントについてもお話しいただきました。

また、セミナー後半は、医療観察法事件や少年事件など、前半よりも個別具体的な題材が扱われました。これらの事件は、一般に手続きが煩雑でとっつきにくい部分もありますが、前提知識や図解を交えながら説明がなされ、刑事司法に関わった経験のない人でも手続きの流れをイメージできるような内容となりました。

刑事司法手続きというと、“犯罪者を刑務所に入れて、社会から隔離するためのもの”“自分とは関係ないもの”というイメージがあり、多くの人にとってはどこか遠い存在のようにも思えます。

しかしながら、ごく基本的な刑事司法の基礎を知った上で、日頃から加害者・被害者双方の境遇に目を向けることこそが、犯罪当事者支援の第一歩であり、さらなる支援のフィールドは私たちの身近なところにも広がっています。

本セミナーは、刑事司法手続きや犯罪当事者支援は決して閉鎖的なものではなく、犯罪当事者の社会復帰には周囲の人々や社会全体のサポートが不可欠である、ということを実感した3時間となりました。

セミナーの最後には質疑応答の時間が設けられ、参加者の皆様から講師のお二人に向けて、多数の質問が投げかけられました。質問内容としては、刑事司法の実務に関する専門的なものから拘禁刑に移行すること意義についてなど、様々な切り口からの質問が活発に交わされました。

このような質疑応答の活発さ講義中の真剣な雰囲気より、本セミナーは、全体を通して、幅広い層の方にとって学びの大きい時間となったのではないかと感じます。

(私自身、新たな知識や視点が増え、一大学生として今後の犯罪当事者支援へのかかわり方を考える大きなきっかけとなりました。)

次回のセミナーは「拘禁刑でどう変わるのか」をテーマに9月ごろ実施予定です。拘禁刑については、犯罪当事者支援に直接かかわりのある方のみならず、そうでない方にとっても聞きごたえのある内容であり、注目度の高い最新トピックです。

次回セミナーの詳細につきましては、決定次第、ホームページ等にて告知いたします。ご確認の上、ぜひご参加ください。

